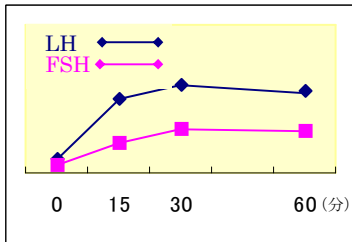




GnRH負荷試験(LH-RHテスト)のご案内

GnRH 負荷試験(ゴナドトロピン放出ホルモン負荷試験)とは、排卵障害や無月経などの内分泌異常を調べる検査です。下垂体から分泌されるゴナドトロピン (LH: 黄体化ホルモン、FSH: 卵胞刺激ホルモン) の血中濃度とそのバランスを調べます。検査方法は LH-RH (黄体化ホルモン放出ホルモン) を注射して、投与前、投与後 15、30、60 分と採血を行い、血液中の LH、FSH を測定します。

下記のパターンを示すことにより障害部位の推定ができます。



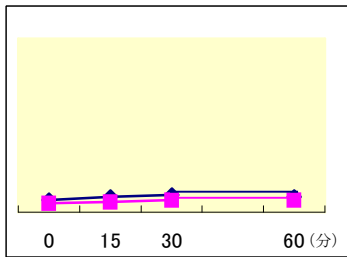
《①・②の図》

①正常反応型

正常者では、約 30 分で最大反応を示します。FSH より LH の方が反応は早くかつ大きくなります。増加率としては LH は 5~10 倍、FSH は 1.5~2.5 倍の範囲内です。

②視床下部障害型

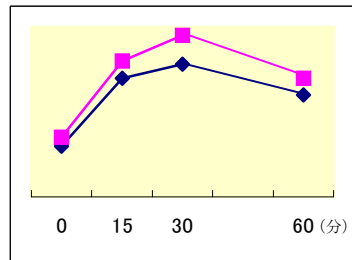
LH、FSH の基礎値が正常範囲、またはやや低値で反応は良好です。



《③の図》

③下垂体障害型

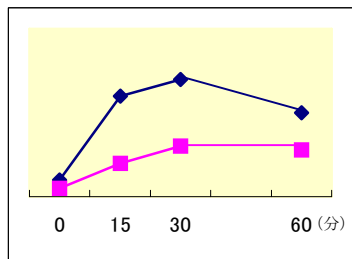
LH と FSH がともに異常低値を示す場合は中枢性の排卵障害が疑われ、低ゴナドトロピン性卵巢機能低下症と呼ばれます。高度な視床下部障害例で長期に経過している場合は下垂体障害型を呈することがあります。このような場合は LH-RH 連日投与または律動的投与により反応は回復するので鑑別は可能です。



《④の図》

④卵巢障害型

LH と FSH がともに異常高値を示す場合は卵巢性の排卵障害が疑われます。高ゴナドトロピン性卵巢機能低下症と呼ばれ、卵巢性ホルモンのエストロゲンやプロゲステロンの分泌に原因があると考えます。



《⑤の図》

⑤多嚢胞性卵巢症候群 (PCOS)

FSH は正常範囲なのに対して、LH がいくらか高値を示すことがあります。このような場合では、多嚢胞性卵巢症候群 (PCOS) が疑われ、超音波診断では卵巢内に多数の中小の卵胞が見られることがあります。

現在、LH、FSH の基礎値が測定できることから、GnRH 負荷試験の必要性は低くなっていますが、LH、FSH が著しく低値の場合は、下垂体性排卵障害を確定するために必要な検査です。